

長崎歴史文化博物館では、美術展示室や町屋の展示替えを定期的に行っております。
是非、ご取材・情報掲載の程、宜しく願い申し上げます。

特集展示 「写」の文化史

絵画の歴史は何かを真似ることから始まりました。日本の絵師にとって「写」すことは記録のための単なる模倣ではありませんでした。日本で中世以降に数多くつくられた肖像画においても、それは同様です。頂相は禅宗における師から弟子への教を具現化したものであり、お絵は祖先崇拜のためにつくられました。「写」の根幹には対象への深い想いがあったのです。「写真」という言葉は、“画家が真景を写し描く”という意味で、日本に写真機が伝来する幕末以前から使われていました。そして技術の発展と共に様々な撮影手法が誕生していきます。肖像写真を名刺代わりに交換し合う習慣すら生まれ、瞬く間に「写真」は社会に浸透していきます。本展では、日本に伝わる多彩な「写」の文化を紐解いていきます。



「松本みつ絵像」
長崎歴史文化博物館蔵

椅子に座る女性。傍らには松の盆栽も描かれている。輪郭線などの線描を用いずに、色彩の濃淡のみで陰影が施された本作は写真を元に描かれた物であろう。右手に光る指輪も含め、肖像画の近代化を示す好例である。



「2人の上野彦馬」
長崎歴史文化博物館蔵

多重露光撮影を行うことで、同じ画面中に彦馬が二人いるように校正したトリック写真。一枚のガラス湿板に2回以上露光して作成する。彦馬の探求心が垣間見える写真である。



「長崎風物図箱(出島表門橋)」
長崎歴史文化博物館蔵

外箱・中箱の各面に記された模様には長崎の風物を伝える場面が表現されており、各構図と一致する写真が数点存在する。この小箱に描かれているのは、出島と江戸町に架かる表門橋。

特集展示 「写」の文化史

会期：開催中～4月16日(日)
会場：特集展示室（2階常設展示室 歴史文化展示ゾーン内）
時間：8:30～18:00（最終入館17:30）
※4月以降は8:30～19:00 ※4月10日(月)は休館
観覧料：常設展観覧料でご覧いただけます
（大人600円 小中高校生300円 ※県内小中学生は無料）

